



地域の豊かな風況を活かした発電設備

# JR秋田下浜風力発電所運用開始

JR東日本では、再生可能エネルギーの導入によって「環境にやさしいエネルギーの創出」、「地域への貢献」をめざしています。2016年12月には、当社初の風力発電設備となるJR秋田下浜風力発電所が運用を開始しました。

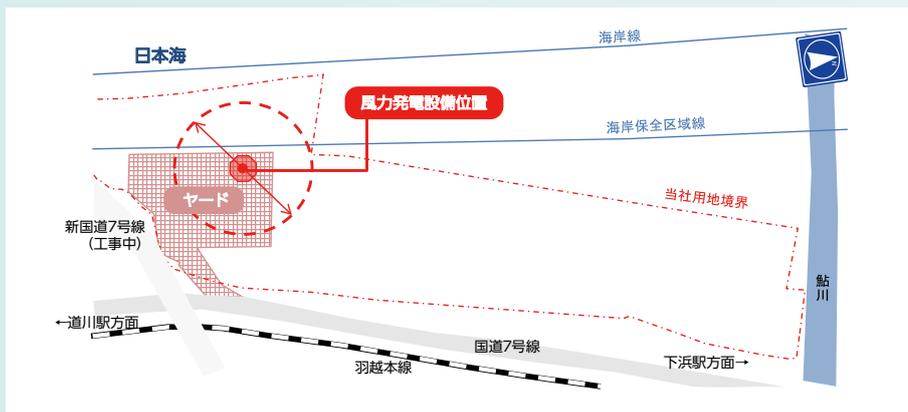
## ◎JR秋田下浜風力発電所の概要

### 主な仕様

- ・名称 JR秋田下浜風力発電所
- ・場所 羽越本線 道川～下浜間沿線(下浜駅から南に約1.5km付近)
- ・風車型式 HTW2.0-86((株)日立製作所製)
- ・タワー高さ 78[m]
- ・羽根直径 86[m]
- ・発電機定格出力 1,990[kW]
- ・年間想定発電量 5,800[MWh](一般家庭1,600世帯分)



Photograph : Toru Nagao



## ◎当社初のプロジェクトとしての取組み

JR秋田下浜風力発電所では風車の一部が海岸保全区域の上空にかかるため、建設が懸念されましたが、秋田県の指導の下、計画どおりの施工が可能となりました。また、建設用地が植樹エリアと重なるため、関係者と調整の上、代替地を確保し植え替えを行いました。



建設エリア図

風力発電設備を建設するには、多くの法令に対応する必要があります。ブレードなどの長大重量物を一般公道にて運搬するには、道路法に基づく手続きが必要であり、その他にも、電気事業法、海岸法、景観法、電波法および航空法などの手続きや確認が必要です。これらの対応を漏れなく実施し風力発電所の運転開始ができました。



道路法手続きが必要なブレード輸送

当社として初めての大型風力発電設備を運用するにあたり、安全を最優先とした上でコストを最適化する運営管理を目的に、学識経験者や先行事業者など社外有識者による研究会を立ち上げ、その成果を基に運用体制やメンテナンス方法を確立しました。



風力発電設備管理・運営研究会

## ◎地域貢献

秋田市が進める「あきた次世代エネルギーパーク」に参画し、風力発電設備の見学施設の整備やPR資料を作成するなど、地元の皆さまに再生可能エネルギーに対する理解を深めていただくよう取り組みました。

「あきた次世代エネルギーパーク」リーフレット



## VOICE



第一建設工業株式会社 執行役員 秋田支店  
副支店長兼鉄道営業部長  
(元JR東日本秋田支社総務部)

### 有谷 浩

私は、主に秋田県や市などの関係自治体や地元自治会、放送協会等との協議を担当しました。JR東日本初の風力発電所を建設すること、計画から建設ノウハウ・設備管理技術の確立という、非常にやりがいのある事業に関われたことを誇りに思っています。



大宮支社 大宮電力技術センター  
浦和電力メンテナンスセンター メンテナンスセンター長  
(元東北工事事務所 再生可能エネルギー・ビルプロジェクト)

### 瀬尾 健太郎

私は、主に発電設備の設計・施工を担当しました。施工の最盛期に台風が接近するなど厳しい状況もありましたが、東北地域へのエネルギー供給という役割を担う本仕事を工期内に無事故で完成できたことはとても感慨深いです。



秋田支社 設備部 電力課  
企画工事グループ 主席

### 清水 俊孝

当発電所はCO<sub>2</sub>の削減だけでなく、地域へ貢献することもめざしています。運転開始以降、社内外の多くの方が見学にいらっしゃいました。地域の次代を担う子どもたちの視点に立ったわかりやすい資料を作成するなど、今後とも環境教育を充実したいと考えています。



東日本電気エンジニアリング株式会社  
秋田支社 秋田サービスセンター 課長代理

### 大槻 貢

当社で誰も経験したことのない風力発電所のメンテナンスに携わることができ、非常にやりがいを感じています。冬場は暴風雪や雷が多発するなど、厳しい環境にありますが、確実なメンテナンスの実現に向け、一つ一つ経験を積み重ねていきます。

関連記事についてはP110をご参照ください。▼